

平成23年度

学校評価

総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

1. 教科指導

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【1 教科指導】 授業、学習指導の充実と生徒の学力向上支援体制を確立する。	(全校レベル) 主体的な学習意欲の育成を図り、基礎学力を定着させる。 (下位組織レベル) 1) 教育課程の充実。	評価指標 1) ①数学・理科が先行実施される新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。同時に各教科・科目の単位数についても検討し、よりバランスの取れた教育課程に改訂する。 ②選択科目の多様化を図り、24年度普通科の教育課程では50科目以上を設定する。	評価指標の達成度 1) ①新入生の教育課程については、本校の単位制の特色を生かし、数学・理科の単位増による他教科の単位数の減少は少なく、バランスの取れたものとなった。 ②普通科では学校設定科目を含め、74科目を設定した。	評価 B	総合評価Bは妥当である。 基礎学力の底上げにつながる取り組みを今後も継続的に続けてほしい。 授業の相互評価について、参観された先生方の授業に対する感想などを取りまとめ、参考になる意見などは全体で共有してはどうか。 土曜日補習について、先生方にはご負担があったと思うが生徒からの評判が良く参加率も高いと聞いている。経済的な負担を考えると大変助かっている。今後も効果的に実施してほしい。
	2) 授業形態の充実。	2) ①教科会用の時間を設け、授業内容・進度、定期考査・課題テスト問題等について検討する時間に充てる。 ②シラバス（授業計画）を全体指導と個人面談の両方で活用する。	2) ①教科会の時間を設定したが、ほとんどの教科で教科会が定期的に開かれていなかった。 ②1年次オリエンテーションやHR活動での科目選択説明で複数回使用した。	B	
	3) 授業評価と相互授業参観による教員の指導力強化。	3) ①授業評価を10月に1回完全実施する。その結果を教科会で検討し、10月以降の授業改善に役立てる。 ②他の教員の授業を5回以上参観する。 ③さまざまな入試研究会や授業力向上のための研修に参加する。	3) ①授業評価は実施できており、全体の項目に対して約85%が好意的な回答であった。 ②ほとんどの教員が5回以上参観した。 ③駿台・河合塾・代ゼミ・ベネッセが主催する入試動向研究会・センター分析研究会に3年次担任を中心に複数回参加。また、小論文研究会等にも国語科教員が主に参加し、研修内容を推薦入試に生かした。	B	
	4) 基礎・基本を中心とした放課後の学習指導。	4) 成績不振者・科目数の割合を各考査において昨年よりも減少させる。	4) 一学期末考査では昨年度に比べ、全年次で欠点保有者・科目が多かったが、二学期末考査では1年次で減少し、2年次で増加、3年次は同数であった。	C	
	5) 早朝・放課後の主体的な学習活動。	5) ①基礎学力の補強と学習習慣の定着を図るために『朝学』10分間の設定。 ②毎週月～金の放課後、社会科教室などの特別教室を学習室として開放する。	5) ほとんどの生徒が朝学に対して真剣に取り組んでいたが、学習習慣の定着までには至っていない。	B	
	6) 土曜日の学習活動。	6) 土曜日午前中の補習を2学期・3学期で11回実施する。	6) 実施日の変更(9/17→1/7)があったが予定通り11回実施し、参加率も高く、効果的であった。	A	
	7) 長期休業中の学習。	7) ①1・2年次生：長期休業中の全員補習出席率90%以上。 ②3年次生：希望選択の補習出席率90%以上。 ③進学希望者による早朝・放課後マークトレーニングについて、必要な科目ごとの参加率80%以上。	7) ①1・2年次生：全員補習出席率(夏冬出席率の平均) 1年次夏冬補習 92.2%(昨年度94.3%) 2年次夏冬補習 92.0%(昨年度91.8%) ②3年次希望補習83.0%(78.4%)国教英 ③センター試験受験予定者190名による早朝マークトレーニングを実施参加率87.2%(68.7%)：国教英の平均	A	

- 新学習指導要領が完全実施される25年度入学生の教育課程を編成すると同時に、25年度教育課程の改善を図る。
- 次年度は開講科目の状況についても考慮する。
- 教科会をもっと定期的に開催し、生徒の学力向上につなげる。
- シラバスの様式・内容を検討する。
- 授業評価を教科会で必ず検証し、教科全体で授業改善に取り組む。
- 授業力向上を図るため、新たな取り組みとして研究授業を1・2年で2学期に実施する。1学期については従来通り授業参観を行う。
- 生徒の朝学に対する意識を更に高め、基礎力養成を図り、学習習慣の定着につなげる。

8) 家庭学習の確保・充実。

9) 自己管理能力の育成。

8) 単元テストCOMPASSの合格者を90%以上。

9) 学習・生活記録を毎日記入させることで、生徒自身で日々の生活の中に学習習慣が定着できるように、支援する。

活動計画

1) 教育課程検討委員会を3回開き、新学習指導要領に対応するだけでなく、教科バランスについても十分審議し、改善を図る。

2) ①教科会で授業内容等を検討し、担当間で大きな差違のないようにする。

②シラバスの活用により、ガイダンス機能の充実と科目選択時における利便性の向上を図る。

3) ①授業評価の結果を分析し、各自が授業改善に努めるとともに、教科会で検討し、学力向上に努める。

②相互授業参観月間で他の教員の授業を参観することにより、授業改善を図る。

③授業力向上のための研修に参加する。

4) 定期考査前の放課後に基礎・基本を中心とした補習を実施し、成績不振者・科目数の減少を図る。

5) 社会科教室などの特別教室を開放しての放課後学習を実施する。

6) 土曜日において、英数国から2教科選択してテーマを絞った効果的な補習を実施する。

7) 補習等の出席率を上げ、学力向上を図る。

8) 単元テストCOMPASSを実施し、授業と家庭学習の連携を図る。

8) Compass合格率(50点満点中30以上が合格)
1年次全体 77.7%(昨年度78.2%)
(国語83.3%, 数学82.5%, 英語67.4%)
2年次全体 58.2%(昨年度68.0%)
(国語40.3%, 数学67.1%, 英語67.3%)

9) 学習・生活記録の毎日記入・提出により、生徒自身が自らの生活を見直す機会としたが、学習時間の増加に繋がらなかった。

活動計画の実施状況

1) 教育課程検討委員会は予定通り実施した。新入生の教育課程については、理数教科の単位だけでなく、国語等の単位数についても考慮した。

2) ①授業内容や進度については、適宜教科会で検討したが、回数については十分でなかった。

②1年次の入学時オリエンテーションでの履修の説明や、1・2年次のHR活動での科目選択・進路指導等で活用した。

3) ①授業評価については個人の検証にとどまり、教科会で検討するまでにはいたらなかった。

②6月の相互授業参観月間では多くの教員が相互に授業を参観したが、11月ではあまり活発ではなかった。

③入試に直結する授業を展開するために県外予備校が主催する教育研究セミナーに若手教員が参加して、実践力を身につけた。

4) 中間考査で欠点のあった者は、弱点強化補習を行い、期末考査では大幅に減少したが、昨年度に比べると欠点者の割合が高い。

5) 毎週月から金の放課後、各年次のHR教室に近い、社会科教室・講義室を学習室として開放し落ち着いた学習環境を提供した。

利用生徒の満足度 90.0%

保護者の満足度 91.5%

6) 9月23日より1・2年次生の希望者271人(昨年度286人)に対し、英数国から2教科を選択させ11回の補習を実施した。(昨年度は12回)補習内容は、英数国各教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。

土曜補習を活用している

生徒の満足度は 81.6%

保護者の満足度は 92.4%

7) 長期補習中の全員補習出席率では90%を超え、部活動での大会参加等以外の欠席は非常に少ない。

土曜補習出席率での全11回の平均

1年次 75.5%, 2年次 78.0%

(ただし、一部試合等で公欠欠席を含む)

8) 中間考査で欠点を取得した生徒の弱点分野の補強にも繋がり、期末考査で解消に効果があ

○Compass → 定期考査 → 課題テスト → (授業) → compass → …の黄金サイクルの意義(量・レベル・出題意図)を再確認するとともに、3回のテストで授業内容の徹底を図る。

○難関大志望者の進路実現をより可能とする為、多数の教職員が指導できるように、若手教員を中心に難関大向け教職員授業力向上研修等に積極的に参加する。

		9) 学習・生活記録を活用することで、生徒の自己管理能力を育成する。	った。 9) 学習・生活記録の毎日の記入・提出により自分の生活を振り返り、自らを律する機会とすることができた。また、学習習慣・生活習慣についての指導に生かした。特に、定期考査前などには学習時間を分析し、クラス間で比較検討を行い指導に生かした。		
--	--	------------------------------------	--	--	--

2. 生活指導

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
【2 生活指導】 規範意識の一層の向上（ルールを守る心，モラルやマナーを守る心の育成）に努める。	（全校レベル） I) 基本的生活習慣の確立に努めるとともに，豊かな人間性や社会性を養う。 II) 学校，家庭，地域と連携し，生徒の心に響く生徒指導を行い，道徳性を涵養する。 III) 他者との関係を調整する力やコミュニケーション能力を育成する。 IV) 情報モラル教育を推進する。 V) 学校生活上，問題を抱え，支障をきたしている生徒・保護者に対する支援をする。	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	
					B	総合評価Bは妥当である。
						(所見)
						評価指標関連については概ね達成できた。
	（下位組織レベル） 1) 基本的生活習慣の確立 ①正しく制服を着用させる。（頭髪・服装） ②遅刻指導の充実。	1) ①常時指導を重視し全校集会や年次集会時に，頭髪服装検査を実施するとともに，基本的生活習慣の確立を図る。 ②遅刻者を前年度より減少させる。	1) ①違反者は減少傾向にある。春秋着用期間は指導しやすく地域からの評価も高かった。違反を繰り返す女子生徒の指導に時間を要したが，改善されなかった。 ②遅刻者，前年比24.3%減，朝学習の導入により，50%程度減少すると予想したが達成されなかった。	B	教職員の協力体制により面接や通学指導など積極的生徒指導が展開できた。 朝学習の導入により，遅刻者が50%程度減少すると予想していたが達成できなかった。次年度の課題としたい。	『朝学』遅刻が減少するような工夫をおこなってほしい。
	2) 一人ひとりの生徒理解と個性の伸張を図る。	2) ①保護者との連携を図る。 ②面接週間を年間4回，各年次で全員面接を実施する。三者面談を年間1回実施する。 ③阿南寮・下宿訪問を実施する。 ④長期休業中に関係機関と連携し，合同パトロールを実施する。 ⑤年次会での情報交換を充実する。 ⑥特別指導の件数を減少させる。	2) ①各学期の長期休業前に文書連絡，各年次通信を発行した。 ②面接週間を4回，三者面談を1回，全年次で全員の面接を実施した。 ③阿南寮・下宿訪問を実施した。 ④夏季休業中に校外巡視を行なった。 ⑤各年次での情報交換を実施した。 ⑥特別指導は前年より2件増加した。	C		自転車通学生が多い本校において，重大事故が起こらなくて本当によかった。
	3) 生命の尊重と人権意識・道徳性の涵養。	3) ①交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。 ②いじめ問題講演会を実施する。 ③携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。	3) ①重大交通事故は発生しなかったが，交通事故が前年より3件増加した。 ②人権問題講演会をいじめ問題講演会とした。 学校生活アンケートを12月に実施した。 ③1年次生を対象に実施した。	C	交通事故が毎年増加傾向にある。安全教育を推進していきたい。	○期間を定めて冬服・夏服・春秋服を着用させることを学年進行で実施して3年目，正しく制服を着用するという意識は全体的に高まっている。 ○違反を繰り返す生徒に対して詰めた指導をしていく。 ○朝学習の遅刻者に対する指導を徹底していく。
	4) 教育相談職員研修会の推進と特別支援を必要とする生徒への支援。	4) ①教育相談研修会（年3回） ②外部講師による特別支援教育研修会（年1回）	4) ①研修会を実施し研修を深めた。 ②外部講師による特別支援教育研修会を実施した。	B	教育相談室が整備され，相談室として，また，別室登校を支援す	○全年次面接は1・2年次で実施する。内容は生徒指導に的を絞ったものとし，積極的生徒指導を展開する。 ○関係機関と連携し交通安全教育を進めていく。朝の通学指導・あいさつ運動などを継続していく。 ○いじめはあるものとの認識を持ち学校教育全体を通じて取り組む。命の大切さを知らせ，人権意識を基盤とした仲間づくりや道徳心の涵養に努める。 ○週に3回，昼休みに相談室を開放し生徒の相談に応じる体制を確立する。

		<p>③特別支援の必要な生徒に対して、特別支援チームを編成しての取り組み。 ④校外関係諸団体による研修会への参加。</p>	<p>③特別支援の必要な生徒を支援した。 ④校外関係諸団体による研修会に参加した。</p>		<p>る場所としての環境が整った。</p> <p>全職員が特別な支援を必要とする生徒について共通理解をするための機会を持つことができた。</p>	<p>○特別支援の必要な生徒の要望に応えられるように研修に努める。</p> <p>○特別支援を必要とする生徒の実態は多様であるということを念頭に置き、教職員も研修を深める必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>1) ①頭髪・服装違反検査・再検査（毎月） ②毎週末遅刻指導</p> <p>2) ①長期休業前文書連絡・年次通信・必要に応じて家庭訪問 ②面接週間を4回、全員面接（3年次6月,2年次10月,1年次11月）三者面談を実施する。 ③阿南寮訪問・下宿訪問（1学期） ④合同パトロール実施（7月・3月） ⑤年次会情報交換の充実（随時）</p> <p>3) ①交通マナーアップ活動（校門前のあいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施する。 ②自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。（年2回） ③毎月、学校安全の日に街頭通学指導を実施する。 ④原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。 ⑤携帯電話安全教室や薬物乱用防止教室など生活安全に関わる行事を実施する。</p> <p>4) ①特別支援教育研修の実施 ②必要に応じて特別支援教育委員会を開く。 ③特別支援教育コーディネーター研修会等に参加する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ①全校集会・年次集会時に頭髪・服装検査を実施し後日再検査を実施した。 ②毎週末、個別指導を実施した。</p> <p>2) ①長期休業前に文書連絡を3回、各年次通信を発行した。 ②各次面接を予定通り実施した。 ③阿南寮・下宿訪問を1学期に実施した。 ④夏季休業中に各年次で巡視を行なった。 ⑤各年次会を開催し生徒の支援に努めた。</p> <p>3) ①生徒会交通マナーアップ委員会を中心に運動部・文化部が加わり、あいさつ運動を実施した。 ②4月・9月に自転車・原付自転車車体検査を実施した。 ③学校安全の日の街頭通学指導に加えて7月から毎週、月曜から木曜に富西前交差点で街頭通学指導を実施した。 ④10月に原付実技講習会を実施した。 ⑤1年次生を対象に、6月に携帯電話安全教室、10月に薬物乱用防止教室を実施した。</p> <p>4) ①外部講師による校内研修会を実施した。 ②特別な支援を必要とする生徒について全職員が共通理解をするための研修会を実施した。 ③特別支援教育に関する研修会に参加した。（3回）</p>			

3. 進路指導

		自己評価			学校関係者	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		評価	
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	
【4 進路指導】 進路設計と情報活用の能力を育成する。	(全校レベル) I) 進路相談の充実を図る。 II) キャリア教育(職業観育成教育)を推進する。 III) 本校の進路指導を保護者・生徒に広報し、理解を促す。 IV) 総合的な学習の時間の充実。	1) 全年次で個人面談を年間4回実施する。	1) 三者面談を含めた個人面談5回実施し、1・2年次は志望校を含めた進路先の絞り込みについて助言を行うとともに保護者への広報および理解を促した。3年次は年間を通して面談を実施していくことで、全ての生徒が納得のいく形で進路を決定していくことができた。	B	B	総合評価Bは妥当である。
	(下位組織レベル) 1) 個人面談の充実。	2) ①学部系統別進路ガイダンス(1・2年次生)、大学短大等進学及び就職進路別集会(3年)の実施 ②夏季休業中のオープンキャンパスへの参加率1年次35%、2年次60%、3年次80%以上を目指す。	2) ①徳島大学・鳴門教育大学等の講師を招いて学科・コース単位で単位を展開した。 ②徳島大学・鳴門教育大学等の、夏季休業中及び秋季連休中でのオープンキャンパスへの参加率 1年次 23.0%(昨年度30.4%) 2年次 49.3%(昨年度64.8%) 3年次 76.0%(昨年度79.8%)	B	B	大学進学希望者に対し、進学を実現させるだけでなく、将来の希望にあわせて必要な資格取得への助言をお願いしたい。 大学から講師を招いておこなう講演は生徒にとって刺激のあるものでないかと思うので来年度も実施していただきたい。 就職の難しい昨今、生徒の就職が実現できている点や、就職生の離職率が低い点は評価できる。
	2) 生徒個々の職業観育成を目指し、外部と連携した支援を推進する。	3) 進路設計についてのHR活動を各学期2回実施する。	3) 各学期2回の進路HR活動のほか、各年次集会で進路に対する意識の高揚を図った。	B	B	他校では1年生を中心に集団で県外大学へ見学に行っている。積極的に企画してはどうか。
	3) 年次団等による相談体制・面談プログラム整備。	4) ①各年次で進路講演会を年間2回実施する。(生徒対象1回、保護者対象1回) ②PTA支部会における学校説明会に積極的に参加する。	4) 1年次は11月にベネッセコーポレーション水野琢朗氏、2年次は10月に近畿大入学センター高大連携課 屋木清孝氏、12月には年次単位でソーシャルスキル教育株式会社代表 安藤ゆかり氏を招いて『就職試験から考える 今、学生に求められる力』等の進路講演を実施した。また、1年次は第一学習社の小論文担当者から『推薦入試やAO入試等における小論文入試』というテーマで講演を実施。	A	A	
	4) 進路指導の系統的展開。	5) 総合的な学習の時間のテーマ「社会探究」において ①1年次では課題を発見し、各自の研究テーマを見つける。 ②2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 ③3年次ではディベートと小論文を併せて年間6回実施し、表現力強化を目指す。	5) ①1年次では所属する講座を決めて、自主研究のテーマと修学旅行の研修先を決定した。 ②2年次では自主研究発表を、11月に実施し、自己の進路決定に役立てるため、進路ノートを使用した。 ③3年次ではディベートと小論文を実施したが、例年以上に小論文指導に力を入れ進路決定に役立てた。	B	B	○今後も生徒の進路に応じた講演会・説明会を実施する。 ○保護者部会はできるだけ参加しやすい時間に設定する。 ○年次会で扱う内容について勉強会を持つ。 ○進路問題についてのHR活動を生徒にとって魅力的な内容にするため、創意工夫が必要である。
5) 総合的な学習の時間を通して自己のあり方生き方や進路についての自覚を高める。						

活動計画	活動計画の実施状況
1) 模試返却時は個別に返却し、データの見方や各自の勉強のポイントを指導する。	1) C A I 教室を利用し、模擬試験による合格判定システムの使い方を学ぶことで、志望校及び進路先までの具体的な目標値を設定させた。
2) 生徒実態に応じて適時、個人面接を行い、外部機関等とも連携し生徒・保護者を支援する。	2) 模試の成績を進路指導課が中心となって分析し、それをもとに各年次会及び教科会で課題を見つけ全ての教員がその対策に取り組んだ。
3) ①進路設計についてのテーマに沿ったHR活動を年次で実施する。 ②各年次でテーマを決定し、進路ノート等を使って進路指導を実施する。 1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究 3年次：受験までのスケジュール、志望理由、面接、教科別受験対策など	3) 各年次での各学期2回の進路HR活動とともに進路講演会や進路ガイダンスを通して、望ましい職業観の確立や学部学科の研究を深めることができた。
4) ①生徒・保護者対象の進路講演会を実施し、最新の進路情報を提供する。 ②C A I 教室の利用を促す。	4) ①生徒対象の進路講演会とともに、大学・予備校等の外部講師を招いて、保護者対象の進路説明会を実施した。更に最新の進路情報を詳細に進路指導主事が説明した。また県外大学の視察研修を実施することで、各大学の現状把握に繋がった。 ②C A I 教室を研修の下調べや研究発表・ディベートの資料集めの為に、授業時間はもちろん放課後も頻繁に使用した。
5) 進路設計への総合学習の効果を検証する。	5) 自己の関心のある講座に所属して研究を行うことで進路決定に役立っている。更に、進路ノートの活用によって、自己の適性や学部学科と職業との関連を深く知ることができた。

4. 人権教育

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【4 人権教育】 人権学習ホームルーム活動を充実させるとともに、学校生活のすべての場面、相手の立場になって考え、行動できる生徒を育成する。	(全校レベル) I) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動できる生徒を育成する。 II) 日常生活の様々な機会を通して、人権が尊重された環境づくりに努める。 III) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。 (下位組織レベル) 1) 各クラスの人権学習ホームルーム活動の活性化。	評価指標 1) 年間7回の人権学習ホームルーム活動を充実させる。	評価指標の達成度 1) 人権学習ホームルーム活動を年間7回実施した。各担任が工夫を凝らした内容であった。	評価 B	総合評価Aは妥当である。 人権学習ホームルーム活動の事前準備が充実するよう来年度検討してもらいたい。 ○人権学習ホームルームの事前研修会が機能していない面があるので、行事計画に組み入れて実施したい。 ○さらに人権委員が「じんけん富西」の作成に携わる機会を増やしたい。 ○生徒の関心・理解・共感が得られるような行事の内容を選定し、校内行事と照らし合わせ、最も効果の出る時期に実施したい。 ○社会問題研究部の部員を増やし、人権委員会と連携が取れるようにしたい。 ○大会や研修会によっては、人数制限があるので、年度当初の計画時に気をつけたい。 ○保護者の校内行事への参加数を増やしたい。
	2) 人権啓発紙「じんけん富西」の充実。	2) 「じんけん富西」を年間5回発行し、内容を充実を図る。	2) 「じんけん富西」を年間5回発行し、生徒の意見を多数掲載することができた。	A	
	3) 人権講演会、映画会、全校集会等、学校行事の中での啓発。	3) ①「富西人権の日」を月1回実施する。 ②人権講演会、映画会等の事前・事後指導を充実させる。	3) 正・副担任・人権教育主事からのメッセージや映画会（「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」）・講演会（大阪人権博物館学芸員 吉村智博氏）などの行事の企画・運営を行った。	A	
	4) 人権委員会、社会問題研究部など生徒の自主活動の育成。	4) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	4) 全校集会で人権委員長がメッセージを述べた。また、人権委員が「じんけん富西」の原稿を作成した。11月には「身元調査お断り」ワッペン運動に6名が参加した。12月には中・高生による人権交流集会に生徒会役員を含め7名が参加した。	B	
	5) 教職員人権教育研修の推進。	5) 教職員が校外における研修会等へ参加し、校内教職員研修では年次の話し合いを年間2回実施する。	5) 年間4回の教職員人権教育研修を実施した。講演会の講師による部落史の研修をはじめ、各種アンケート調査の結果と分析の報告、教育委員会からの伝達事項の報告等を行った。また、各年次で人権学習ホームルーム活動について話し合いをした。	A	
	6) 学校、保護者、地域社会との連携。	6) 校内行事や各種大会等を保護者やPTA役員に周知する。教職員が識字学級等の地域の活動に積極的に参加する。	6) 保護者に映画会や講演会の案内を配布した。8月には親睦バレーボール大会に多数の保護者が参加した。2月には阿南市人権教育研究大会にPTA役員が参加した。また、阿南市内の識字学	B	

級に教職員が共学者として参加した。

活動計画

- 1) 各クラスの人権学習ホームルーム活動を各年次7時間を設定する。また、事前研修会を実施する。
- 2) 「じんけん富西」に人権委員会の意見を反映させ、生徒が作成に参加できるようにする。
- 3) 「富西人権の日」の人権問題に関する行事を企画し、映画会・講演会のホームルーム活動で感想文を作成する。
- 4) 全校集会での人権委員長による啓発活動、富西祭での展示や社会問題研究部による自主研修を行う。
- 5) 校外の研修会等への積極的な参加と校内教職員研修会で人権意識について教職員間の共通理解を図る。
- 6) P T A人権教育推進部での研修、親睦バレーボール大会へ参加し、親睦を深める。

活動計画の実施状況

- 1) グループ学習やロールプレイング等の体験的参加型学習を実施し、主題やクラスの状況に応じて様々な形でのホームルーム活動が実施できた。
- 2) 「じんけん富西」を年間5回発行し、映画会・講演会の感想や担任・副担任からのメッセージの内容を掲載した。人権委員が原稿を作り、作成に参加した。
- 3) ①「富西人権の日」を毎月1回実施した。
②映画会・講演会の後、感想文を書いたり、話し合いをした。
- 4) 7月の全校集会で人権委員長が啓発のスピーチをした。社会問題研究部が中心となって富西祭で展示をしたり、さまざまな自主研修に参加した。
- 5) 全教職員が校外の研修会に参加し、その内容や感想を校内研修の資料に掲載し、共通理解を図った。
- 6) 親睦バレーボール大会に参加し、親睦を深めることができた。

5. 特別活動

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【5 特別活動】 学校行事や部活動のさらなる活性化を図るとともに、幅広く調和の取れた人材を育成する。	(全校レベル) 集団活動を通して、集団や社会の一員としてのよりよい在り方、考え方を育成するとともに、自己管理能力や自主的、実践的な態度を身につけさせる。 (下位組織レベル) 1) 学校行事と、部活動を充実させる。 2) 生徒会活動や各種専門委員会活動、ホームルーム、部活動が連携するとともに、それぞれの活動の活性化を図る。 3) 部活動を通して調和のとれた人間性と自己管理能力を高める。	評価指標 1) ①学校祭へ来校する一般者数は600人以上。 ②学校祭をはじめとする学校行事の満足度80%以上。 ③部活動紹介や部活動顧問会議の内容充実を図る。 ④部活動への入部率は80%以上。	評価指標の達成度 1) ①学校祭期間中の一般来場者は812人であった。 ②生徒の学校行事に対する満足度は91%であった。 ③部活動紹介や部活動顧問会議の内容は昨年並みであった。 ④部活動への入部率は81.7%であった。	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標については、ほぼ達成できた。教職員と生徒が協力して各行事を安全かつ円滑に運営し、教育効果をあげることができた。生徒の自主性の変化を見ながら支援のあり方を検討する必要がある。	総合評価Aは妥当である。 地域への社会貢献が求められている時代である。ボランティア活動などの学校の動きをもっと広報活動してはどうか。 次年度への課題の中で、生徒は教師に対して依存傾向が強いとあるが、富西祭などで外から訪れると自主性があり活発な印象を持っている。
		2) 各種リーダー研修会を年間2回実施する。	2) 各種委員会を4月と10月に、ホームルームリーダー研修会を5月と10月にそれぞれ実施した。	B	
		3) 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。	3) 部活動主将・部長会議を5月と11月に実施。また、活動状況を見極めたうえで会議を緊急招集したり、全校集会で活動の在り方や諸注意を全体に呼びかけた。	A	
		活動計画 1) ①学校祭を9月実施とし、一般公開する。その他、学校行事開催に際し、その意義についての事前指導を行う。 ②各行事についてアンケートを実施し検証する。 ③部活動紹介、部活動顧問会議を実施する。 ④4月と2月で入部率を調査・把握する。	活動計画の実施状況 1) ①文化祭は9月4日・5日、体育祭を6日に実施した。一般来場者数は文化祭初日682名、2日目は31名で、体育祭は99名であった。運営上の問題もなく安全にすべての内容を実施した。 ②富西祭や球技大会、予餞会などでアンケートを実施し、生徒の意見が反映した行事になるよう検証をおこなった。 ③部活動顧問会議では、各部顧問に運営上の連絡や活動のあり方などについて共通理解を深めた。 ④4月末時点で81.7%であった入部率は、2月調査では80.5%でわずかな減少に止まった。		
	2) 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を実施する。	2) 内容の整理を図るとともに、自主的活動となるよう促した。			
	3) 部活動部長・部員集会を開催する。	3) 部活動のあり方や各部のリーダーとしての心構えについて、生徒に指導した。しかし、実際の部活動で生徒たちに自主性や公共心が芽生えたかといえば疑問が残る。			

6. 環境教育

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
【6 環境教育】 環境問題の理解とその解決への実践，および身の回りの環境美化の推進	(全校レベル) I) 環境問題に関心を持つと共に自然や資源を大切にすることを育成する。 II) 校内外の環境美化活動を推進し，公共心や奉仕の精神の育成を図る。	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定) B	総合評価Bは妥当である。 電力使用を数値化して節電を目指すのなら，使用する紙の量も何らかの形で把握してはどうか。 ○印刷用紙削減についてはその効果について検証し，啓発を進める。 ○節電については，不要時の消灯・エアコンOFF，及び冷房時28℃・暖房時19℃設定の徹底を進める。 ○清掃については，HR・年次・全校集会を通じて，更に啓発を進めるとともに，校内放送等を通じて，15分間の清掃時間の明確化を図る。
	(下位組織レベル) 1) リデュース・リユース・リサイクルを推進する。 2) 節電・節水に取り組む。 3) ごみを正しく分別する。 4) 清掃活動に積極的に取り組み環境の美化に努める。	1) 印刷用紙の削減を意識して印刷を行う教職員が年度当初より増加し90%以上。 2) 節電・節水を意識している生徒・教職員が年度当初より増加し80%以上。 3) ごみの分別に注意を払っている生徒・教職員が年度当初より増加し80%以上。 4) 清掃に真面目に取り組んでいる生徒が年度当初より増加し80%以上。	1) 年度当初教職員全員が意識していたが，2学期末で90%に減少した。 2) 生徒は意識している者が68%から74%へ増加，教職員は100%から95%に減少した。 3) 生徒は意識している者が90%から93%へ増加，教職員は100%を維持した。 4) 真面目に取り組んでいると考えている生徒は，年度当初と同じ83%で増減なしであった。	B B A A	総合評価 (所見) 職員の印刷用紙削減については，年度当初全職員が意識していたが，2学期末では10%（4名）の職員の意識の低下がみられた。用紙削減のもたらす効果を含めた啓発を進める必要がある。 節電への取り組みは，生徒は意識の向上がみられたが，逆に教職員に5%（2名）の意識の低下がみられた。節電取り組みへの効果としては，夏季のエアコン使用について，設定温度・使用時間・使用教室について配慮を求め，4月から10月までの集計で電力使用量を13%減らすことができた。このことより，学校全体としての節電への意識は昨年度より向上していると考えられる。 清掃については，自分自身の清掃への取り組みとしては83%が真面目に取り組んでいると答えている。それに対し，学校全体として清掃にまじめに取り組んでいると答えた生徒は58%となり，一部の生徒がほとんど清掃に取り組んでいない状況が読み取れ，これらの生徒に対する指導が必要である。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) 再利用可能な用紙の活用，必要部数だけの印刷を促す。 2) ①毎月の電気・水道使用量を過年度と比較し，その結果と共に電気使用量に対する二酸化炭素排出量を全校生徒に知らせ，環境問題への意識を高める。 ②電灯のスイッチや水道の蛇口に節電・節水を呼びかける表示を行う。 ③環境委員会を中心に各HRで消灯・エアコンの温度設定を徹底する。 3) ①環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。 ②環境委員等でごみ分別推進ポスターを作製し，各HRに掲示し啓発を進める。 4) ①校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取り組むよう徹底する。 ②月に1回クリアデスクデーを設け，生徒・教職員の机・ロッカー周りの整理整頓を進める。 ③環境委員会を中心に通学路の清掃活動を行う。	1) 必要部数の印刷および裏紙の使用を促す掲示を印刷室に行き啓発すると共に，裏紙の使用が進むように裏面印刷可能用紙の整理に努めた。 2) ①11月に，4月から10月までの使用量及び二酸化炭素排出量をまとめ，グラフ化して各HRに掲示し，環境委員から電気・水道使用量削減の呼びかけを行い啓発を進めた。 ②各HRの削減を呼びかける掲示の不備な個所について，環境委員が再掲示を行った。 ③環境委員会で，環境委員に各HRの消灯・温度設定について気を配るよう指導した。 3) ①環境委員へは，前期・後期専門委員会の際に，また部活動代表者へは，夏休み前にごみ分別教室を実施してごみの適切な分別方法について指導した。 ②ごみの分別方法について，出す場所・分別方法を詳しく示した掲示物を作成し各HRに掲示した。 4) ①全校集会・年次集会等で清掃の取り組みについて，複数の教員より指導した。 ②毎月末金曜を基本に，事前にクリアデスクデー実施の啓発文書を配布し，整理整頓への呼びかけを行った。 ③環境委員会主催清掃ボランティア「富西きれいにし隊」を設け，毎週1回校門からバス停周辺までの清掃活動を行った。			

7. 情報教育

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
【7 情報教育】 ICT活用能力 と情報セキュリティ意識の向上	(全校レベル) I) ICTの活用を推進する。 II) 情報セキュリティポリシーの周知徹底を図ると共に順守に努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	総合評価Bは妥当である。	
	(下位組織レベル) 1) 授業におけるICTの活用を推進する。 2) ICT活用による校務処理の効率化を推進する。 3) 情報セキュリティポリシーの周知徹底を図る。	1) ICTを活用した授業を実践した教員が50%以上。 2) 校務処理の効率化にICTを活用している教員が80%以上。 3) ①情報セキュリティ研修会を年間3回以上実施。 ②環境情報(情報)だよりを年間10回以上発行。 ③定期的にPCやUSBメモリ等の記憶媒体のウイルスチェックを実施している教職員が90%以上	1) ICTを活用した授業を実践していると答えた教員は31%であった。 2) 校務処理効率化にICTを活用していると答えた教員は93%であった。 3) ①情報セキュリティ研修会を4回実施した。(3学期2回実施予定) ②環境情報だよりを2学期までに5回発行した。 ③定期的にウイルスチェックを行っている教職員は88%であった。			B A B
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ICTの授業への活用については、実施していると回答した教員が31%にとどまっている。しかし、ビデオ・DVD等の映像資料を授業に活用している教員は散見されるので、ICT活用をPCおよびPC関連機器に限定し、回答を行ったようにも見うけられる。 ウイルスチェックについては、全く行っていない教職員はいないが、1割強の者が定期的には実施できておらず、粘り強い啓発が必要である。 「富西では、適切に研修や広報が行われ、情報セキュリティ意識が高い」との設問に78%の教職員が肯定的な回答を寄せている。しかし、2割を超える教員が不十分であるとの意識を持ち研修・広報の不足を指摘している。さらに、研修・広報を密に行い、情報セキュリティ意識を高める必要がある。		○ICT機器の使用方法について、定期的な研修を計画し実施する。 ○ICT機器が使用しやすいように使用機器の保管場所を検討する。 ○電子媒体だけでなく、紙媒体についての情報セキュリティについても意識の向上を図る。 ○月1回のウイルスチェックを徹底する。 ○情報セキュリティに関しての研修・広報活動を更に密に行う。

8. 防災教育

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価
【8 環境教育】 防災対応能力を育てる防災教育の推進	(全校レベル) 1) 地震・津波災害への理解を深め、災害時の実践力を養う。	1) ①防災に関する講演会を年間2回以上実施。 ②地震・津波災害についての啓発ポスターを校内掲示。 ③防災に関するホームルーム活動を年間1回以上実施。 ④防災に関する職員研修会を年間2回以上実施。	1) ①被災地支援報告会及び防災講演会を実施した。 ②文化祭で防災展を実施し、実寸津波高表示や地震・津波災害啓発ポスター等の展示を行った。 ③10月に防災HR活動を全HRで実施した。 ④防災講演会の後に研修会をした。また、本校職員による研修会を実施した。	A	(評定) A
	(下位組織レベル) 1) 地震・津波に対する理解を深める。	2) ①防災避難訓練を年間2回以上実施。 ②災害時想定的人员確認訓練を年間10回以上実施。	2) ①5月に地震想定避難訓練を実施、3学期J-ALERTを活用した避難訓練実施。 ②全校集会等の機会をとらえ12回的人员確認訓練を実施した。	A	
	2) 防災避難訓練を充実させる。	活動計画	活動計画の実施状況		総合評価 (所見)
	1) ①地震・津波災害についての講演会を実施する。 ②阿南市防災津波マップ等を利用し、学校周辺及び生徒自宅周辺の津波浸水予想図を作成し、校内に掲示する。 ③全校一斉に防災ホームルーム活動を行い、災害時の自宅への帰宅方法・避難経路の確認、自宅周辺避難場所の確認等を生徒一人一人に行わせる。 ④校内外の講師による、防災研修会を年間2回以上実施する。	1) ①女川町で学校再開支援活動を行った宮本哲也教諭より報告会及び徳大中野晋教授を招いて防災講演会を実施した。 ②本校近隣地域（富岡町北西部）について、防災・避難マップを作成し、校内に掲示及びホームページに掲載した。 ③10月に防災HR活動を全HRで実施し、防災ハンドブックを用いて地震津波災害の概要の理解、阿南市避難場所の確認、災害時の校内での各HRの役割等を確認させた。 ④防災講演会の後、徳島大学中野教授を交えて、職員研修会を実施し、地震・津波災害への理解を深めた。また、本校教職員による、文部科学省主催の防災関係フォーラム参加報告を兼ねた研修会を実施した。		評価指標・活動計画には含まれていないが、本年度本校が地域防災スクール推進事業の指定を受け、それに伴い防災クラブ（部員数53名）を立ち上げ、活動を行った。活動内容は、高齢者宅への家具等転倒防止器具設置ボランティア・学校近隣地域について防災避難マップの作成・避難所運営支援のための知識・技能の習得研修であり、これらの活動を通して、生徒の防災対応能力は高まった。	
	2) ①防災避難訓練を全校生徒職員対象で実施する。また、1回は予告なしで実施し、緊急時の対応能力を育てる。 ②全校集会等の機会を活用し、人員確認の訓練を行う。	2) ①5月に、携帯電話により緊急地震速報受信を想定した、避難訓練を実施した。また、3学期に導入されたJ-ALERTを用い、予告なし避難訓練を3月に実施した。 ②全校集会等の際にHR担任・室長のそれぞれで二重の確認を行う人員確認訓練を実施し、その後、災害時の人員確認の大切さについて啓発を行った。		総合評価Aは妥当である。 今後の防災クラブの活動を効果的に広報活動することで、本校の特徴にしてほしい。	
					○本年度の防災クラブの活動は、防災クラブ員による校外への活動が主となり、本校生徒全員の防災意識の向上へとつなげることが十分できなかった。 ○次年度は、防災クラブの活動を学校全体で共有し、学校全体の防災対応能力を高めたい。

9. 学校広報

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
【9 学校広報】 本校の教育活動や生徒の状況等を、多くの人に知ってもらうよう広報活動に力を入れる。	(全校レベル) 広報活動を通して本校の魅力を多くの人に知ってもらう。	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定) A
	(下位組織レベル) 1) ホームページによる迅速で広範な情報発信を行う。 2) 中学校訪問を行う。 3) 地域説明会を行う。 4) 中学生体験入学を充実させる。 5) 一般公開授業を行う。	1) ホームページの更新を年間で50回以上行う。 2) 年間2回以上の中学校訪問を行う。 3) ①5ヵ所で地域説明会を行う。 ②参加者は合計100名以上。 4) ①昨年より生徒の活動を増やし、中学生にとってより魅力的なものにする。 ②参加者は500名以上。 5) 参加者70名以上。	1) 年間約60回更新できた。 2) 小松島中学校から日和佐中学校まで予定した中学校を2回訪問した。 3) ①5ヵ所で説明会を実施した。 ②295名の参加者があった。 4) ①生徒の活動は増えたが、内容は改善の余地がある。 ②534名の中学生の参加があった。 5) 125名の参加者があった。	A B A B A	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		1) いろいろな行事や生徒活動等のホームページへの掲載を迅速に行う。 2) 小松島以南の17の中学校に対して、本校の学習活動に関する取り組みや進学状況等を報告する。 3) ①阿南・小松島・那賀・羽ノ浦・美波地区で本校の教育活動や理数科などの説明をする。 ②各中学校に参加案内を配布したり、ポスターなどを製作して参加者を募る。 4) ①教員による学校説明を減らし、生徒をもっと活用する。 ②より多くの中学生が参加しやすいように近隣の高校と日程を調整する。 5) より多くの保護者等が参観できるように日曜日に実施する。	1) ホームページへの掲載に時間を要したことがあった。 2) 予定していた17中学校は全て訪問し、本校の取り組みや、該当中学校の卒業生の進路状況についての説明を行った。 3) ①予定していた5地区で説明会を実施した。 ②中学校に案内のリーフレットの配布などで協力をいただき、昨年度比100%以上の参加者があった。 4) ①教員の説明時間は少なくなった。生徒による理数科の説明が内容的に十分ではなかった。 ②富岡東高校、小松島高校と日程の調整を行った。参加者は昨年とほぼ同数であった。 5) 日曜日に実施して、参加者は昨年度比30%以上の増加であった。		総合評価Aは妥当である。 ホームページをよく見るが、年間行事や教育課程などで古いデータが残っていて見づらい。忙しいとは思いますが、新しい内容にこまめに更新した方がよい。また、必要な情報にたどり着けないなど入りにくい点があり、ホームページレイアウトも考えていただきたい。 ○ホームページの担当教員を複数にし、行事などが終わったらすぐに更新する。 ○中学生体験入学での本校生の説明内容が充実したものになるよう事前準備を十分に行う。 ○学校公開日の中学生の参加が増えるよう、中学校に対して広報活動を行う。